

Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake:
A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey

東日本大震災後の心理的因子及び避難とその後の循環器疾患との関連：
福島県「県民健康調査」を用いた前向き研究

佐能 俊紀

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 公衆衛生学分野

著者 佐能俊紀¹⁾、江口依里²⁾、大平哲也^{2),3)}、林 史和^{2),3)}、前田正治^{3),4)}、安村誠司^{3),5)}、鈴木友理子⁶⁾、矢部博興^{3),7)}、高橋敦史^{3),8)}、高瀬佳苗^{3),9)}、針金まゆみ^{3),5)}、久松隆史¹⁾、荻野景規^{1),10)}、神田秀幸¹⁾、神谷研二^{3),11)}

1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野、2) 福島県立医科大学医学部疫学講座、3) 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、4) 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、5) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、6) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、7) 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、8) 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、9) 福島県立医科大学看護学部地域・公衆衛生看護学部門、10) 高知大学教育研究部医療学講座医療学系予防医学・地域医療学分野、11) 広島大学原爆放射線医科学研究所

要約 災害後の心理的因子や避難が循環器疾患に与える影響を評価した報告は限られています。本研究では、大規模コホートをを用いて、心理的因子と避難との組み合わせが循環器疾患に与える影響を前向きに検討しました。東日本大震災後に福島県民を対象とした自記式調査（こころの健康度・生活習慣に関する調査）に回答し、2012年に循環器疾患の既往がなかった30～89歳の男女37,810人を、2017年まで追跡調査しました。心理的因子と避難の組み合わせに基づき、対象者を4群（両方なし、心理的因子のみ、避難のみ、両方あり）に分け、追跡期間中の循環器疾患発症を調査し、生存時間解析を行いました。追跡期間中（平均3.7年）の循環器疾患の発症者数は3,000人でした。男性では、心理的因子のみある人に対し、心理的因子と避難が両方ある人では、脳卒中と心臓病のリスクが約5～25%上昇しました。男性では、両方なし群と比べて、心理的苦痛と避難の両方あり群では、脳卒中は1.75倍、心臓病は1.49倍リスクが高くなっていました。同様にトラウマ反応と避難の両方あり群では、脳卒中は2.01倍、心臓病は1.57倍リスクが高くなっていました。女性では避難によるリスク上昇はみられませんでした。東日本大震災後の心理的因子を持つ男性に避難が加わると、循環器疾患の発症リスクがさらに上昇することが明らかとなりました。この研究は、避難を伴う災害後の循環器病予防対策に示唆を与えるものです。

掲載情報 「International Journal of Environmental Research and Public Health」(2020)

Sanoh T, Eguchi E, Ohira, T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K.
Int. J. Environ. Res. Public Health. 2020 Oct ; 17(21) : 7832